

規律を正し見える化

変わる働き方



定期的に職員とトーキングを行う

10年前まで離職率が40%を超えていた滋賀県の「社会福祉法人あいの土山福祉会」（服部治男理事長）。立て直しに向けて人材確保対策室を新設し、予算と権限を持たせ、トップダウンでスピーディーに改革に取り組んだ。ポイントは「規律」と「見える化」。その実績は福祉業界初の「女性が輝く先進企業表彰」、「日本で一番大切にしたい会社大賞」など数々の賞で評価されている。

（榎戸新）

た。さらに、勤務交代時刻の5分間に館内に音楽を鳴らし、一斉出勤・退勤する仕組みを導入。これらにより、法人全体の年間残業は41時間まで減った。

二つ目は「身体的負担の軽減」。居室や浴室などで全面的にリフトを採用し、抱え上げない介護を実践。また、体位変換ケアマットを使い、夜間に頻回に行う体位変換の負担を減らした。ほかに

3本柱で職場環境改善

同法人は職場環境改善の目標として「職員を大切に」して辞めさせないことと「掲げ、三つの対策を進めた。

一つは「残業ゼロ」。

以前は業務に手間暇をかけることに自己満足し、残業が当たり前で定時で帰れない雰囲気があった。

そこで職員が集まる会議を極力なくしたり、時間をかけていた記録を簡潔化したりするなど、業務を洗い出し、削減し

た。さらに、勤務交代時刻の5分間に館内に音楽を鳴らし、一斉出勤・退勤する仕組みを導入。これらにより、法人全体の年間残業は41時間まで減った。

二つ目は「身体的負担の軽減」。居室や浴室などで全面的にリフトを採用し、抱え上げない介護を実践。また、体位変換ケアマットを使い、夜間に頻回に行う体位変換の負担を減らした。ほかに

も床掃除や窓拭きのロボット、食器洗い洗浄機なども取り入れ、「機器ができるものは機器で」というスタンスで取り組んでいる。

職員向けには「有酸素カプセル」「ウォーターベッド型マッサージ」を購入し、職員からは「体の疲れの取れ具合が全然違う」と大好評。廣岡隆之施設長は「こうした取り組みは人材採用の宣伝にもなる」と話す。

- 【法人プロフィール】
- ★設立年 1996年11月5日
 - ★事業規模 拠点数2、事業数8（特養3カ所、通所介護1カ所ほか）
 - ★定員 141人
 - ★総事業収入 4億7500万円
 - ★人件費率 63%
 - ★平均賃金 正規450万円（賞与込み）
 - ★職員数 正規58人、非正規35人
 - ★平均勤続年数 9年
 - ★平均年齢 44歳
 - ★重要視する経営指標 生産性

社会福祉法人あいの土山福祉会（滋賀県甲賀市）

る。一方、各職員と定期的なトーキング（悩みなどを聞く）を行ったり、施設間をフリーに動いてマネジメントする「介護福祉

を聞く）を行ったり、施設間をフリーに動いてマネジメントする「介護福祉

廣岡施設長は「働きやすい職場づくりのため、経営と人材確保対策室をリンクさせ、本当に必要なところに予算をかけている」と話す。母子やホームページの制作など自分たちでできることに予算はかけない。

そのために形骸化していた就業規則、服務規律などの諸規程を整備し直して「見える化」した。

廣岡施設長は「ルールが明確であれば指導しやすく、職員の不満も生まれにくくなる。人間関係は放置しても良くなるしかない」と語る。

「ワークライフバランス」「ハラスメント」「虐待防止」などの冊子も廣岡施設長が手作りし、全職員に配布している。



職員に好評の有酸素カプセル

社士長」を独自に配置したり、「トップダウン」を進めるが、職員への丁寧な説明は欠かせない」と廣岡施設長は強調する。

法人では予算に予備費をとっていない。コスト管理の意識が薄くなるとの判断からだ。